

秋の大学祭

今回で55回を数える姫山祭が2004年11月6日に開催されました。当日は天候にも恵まれ、メイン会場となった図書館前の広場は大勢の人で賑わいました。写真はメインステージ裏手から。

鴻文

第 24 号
発行・鴻文会

山口大学 文理学部 文学科
人文学部 同窓会
山口大学人文学部内
電話 (083) 933 - 5200

(連絡事務所)
山口市平井773 - 2
沖田ビル202

電話・FAX (083) 928 - 4527
郵便振替口座 01500 - 4 - 15902
[http://](http://homepage3.nifty.com/koubun/)
homepage3.nifty.com/koubun/
メール:koubunkai@nifty.com

還暦雑感

鴻文会委員 宮 藤 隆 夫

《還暦は人生の通過点》

「人生七十 古来稀なり」とうたったのは、中国の詩人杜甫である。平成一六年一〇月二六日、私は還暦を迎えた。人生五〇年時代であれば、赤いちゃんちゃんこを着せられて大勢の子や孫に囲まれ「還暦祝い」を盛大にやったものである。だが、少子・高齢化の著しい今日では、周囲からの「おめでとつ」の言葉も、ましてや「祝い事」もない。加えて、私自身還暦を迎えたという感慨もない。女性一三四歳、男性一〇九歳を最高齢に、一〇〇歳以上の長寿者が全国で約二万以上のぼるといふ世界に冠たる長寿大國日本である。還暦は、花に譬えるならまだ蕾と言つと図々しいが、「もう還暦」ではなく、「まだ還暦」の感じ。

《顔は男の履歴書》

或る書き物に、「顔は男の履歴書だと言つたのは、リンカーンである。男は、四〇歳を過ぎたら自分の顔に責任を持たなければならぬ。人間は、生きてきた年月の分だけ、人生で体験してきた内容の深さだけ顔に現れる。一〇年と言つ人

生経験は、単純に一年を一〇回繰り返したもので決してない。」とあった。頭髮は人並み以上に白くなったが、顔に歳を感じさせるこれといった皺もない。以前とそれほど変わらない顔を毎朝鏡で見るたびに、生まれてから今日まで、一年を六〇回繰り返したもので決してないが、リンカーンの言葉を噛み締めるながら人生の経験不足に反省しきり。

《独りを慎む》

卒業後三七年間勤めた職場を、多くの人に支えられてなんとか無事卒業できた。現在の職場は、職員数一〇〇人足らずの職場ではあるが、今の職場を第二の職場とは決して考えていない。「上、三年にして下を知らず。下、三日にして上を知る。」という。職員に絶えず背中を見られているので、行動においては己に厳しく、「独りを慎む」を常に心掛けている。また、「論言、汗の如し」や「寸鉄人を刺す」を肝に銘じている。勿論「組織改革や組織の活性化のためには、同じ人間が同じポストに長く留まらないこと。」が持論の私としては、引き際は十分心得ている。

《備えがあっても憂いがある》

「太平の世は五風十雨」という。しかし、平成十六年の日本列島は、昨今の我が国の世相を如実に反映してか、数多の天変地異に見舞われた。火山が噴火し、完膚なきまでに台風が猛威をふるい、大地震や洪水により甚大な被害を被った。科学万能とされる現代においても自然の猛威の前には人間は茫然自失、なす術もない。こう手加減なしに再々天災に見舞われたのでは、「天災は忘れた頃にやってくる」と言った地球物理学者寺田寅彦の名言は死語となりそう。しかし、「備えあれば憂いなし」に一縷の望み。

《花は半開を看、酒は微酔に飲む》

十数年前の台風襲来の際、我が家も数日間の電気のない生活を余儀なくされた。普段当たり前と気にも留めていないことが当たり前でなくなつたとき、人は当たり前前の生活、いつも通りの生活ができることに有難さや幸を感じるもの。新潟県中越地震で被災した小学生にとつての幸せが、「家で布団に寝たい。母の手料理が食べたい。友達と一緒に遊びたい。」というく当たり前のことであることを思うとき、毎日普通に生活できることが、この世で一番の幸せであり、最高の贅沢なのだ。

《隣の芝生は青い》

最近よくテレビで、「田舎で暮らそう」と

と言つた類の番組を放送している。実際、定年後田舎暮らしを始めた人や定年を待たずに田舎に移り住んだ人達の生き生きとした生活を紹介している。その人達が、「自然がいっぱい、土地も安い、人情が厚い、生活費もたいしてかからない」等々の自己満足の言葉で、都会の喧騒に疲れた人達に田舎暮らしをしきりに勧誘している。でもあんな、「成功者のいいところだけ見せられて、安直に田舎暮らしを始めてみても、こんなはずではなかつた」と後悔するのが落ち。隣の芝生は青いと言つて、「残念」。

《人生の本舞台は常に将来にあり》

人間年を取るにつれて肉体的、精神的にも個人差が顕著に現れてくると言つた。同じ話を何度も繰り返したり、自慢げに過去の話をするのは、年を取つた証拠。老化のしるしの現れ。九四歳にして、「人生の本舞台は常に将来にあり」と言つた尾崎行雄翁のように、過去を振り返るのではなく絶えず将来を見据えて生きる必要がある。また、「三國志」の英雄の一人魏の武帝、曹操の「烈士暮年、壯心やまず」の気持ちを持続すれば、老化のしるしもそう簡単には現れないだろう。西洋の詩人も「年を重ねただけで人は老いない」と言っている。

(文理第一五回卒・社会学)

山口大学は、今!

山口大学副学長補佐 小谷典子

大学は法人化してどのように変わりましたか、とよく尋ねられる。平成一六年四月一日には法人組織への移行のために、確かにさまざまなセレモニーが催された。

大学広報の担当者として、法人化に向けて、大学のアイデンティティを確立するためのシンボルを策定する作業をしてきた。その結果が山口大学のシンボルマークであり、ピーコックグリーンと若葉色の二色のシンボルカラーであり、山口大学の和字・欧字のロゴである。(マーク参照のこと)

四月一日には、事務局一号館に付設されたシンボルマークの銘板の除幕式も行った。このマークやロゴは、商標登録をすませ、目下、シンボルグッズの開発を大学生協にお願いしている。幸いマークの評判もよく、グッズはまだかという声も高い。

人文学部の教員会議は、われわれが公務員ではなくつたので、人文学部「拡大大教授会」と表すようになった。事務部長も拡大大教授会の一員となった。このように表面的に組織は変わったが、われわれ「教育職員」の組織人としての意識の変化はまだまだである。

しかしながら、魅力ある組織づくりの一環としてさまざまな活動が行われている。人文学部の公開講座「やまぐちサターカレッジ」は定評があり、徳山駅ビルの市民交流センターで開講されている「周南サテライトカレッジ」も継続されている。社会情報論コースでは、一六年度から「社会調査士」の資格がとれるようになった。認定機構の認定する資格ではあるが、アンケート調査のような調査ができるノウハウを身につけていることの証拠となる。教員免許、司書、学芸員に次ぐ取得可能な資格である。人文科学研究所修士課程では「専門社会調査士」の資格が取得できる。

また、学ぶ立場に立つた授業のために学生の授業評価を採り入れたり、受験生確保や社会貢献のために高校へ出前講義をしたり、研究費が削減されるので科学研究費の申請が義務づけられたりと、身辺があわたたく変化していることは事実である。

法人としての大学は、大学外からの評価を意識して、中期目標、中期計画、実施プログラム、その達成、達成を示す書証と、今のところ法人組織としての形式を整えるための膨大な時間が必要となつ

ている。これが生活時間の中に大きくのさばってきて、大学は本来、教育研究機関であるという姿が薄れてきている感もある。

学生たちには申し訳ないが、大学の組織運営にかかわる仕事を済ませた後の時間となる。その授業のための基礎となる研究活動はというと、さらに後回しになる。研究が進まないことはマイナス評価になるので、トータルとして大学が良い方向へ組織変革したとはさらさら思えない。

法人のメリットが表れるには、まだまだ相当な時間が必要であろう。

この激動がある程度落ち着いてくれば、活力のある、魅力ある大学や学部になることが期待できるが、数値目標で結果を出していく学問分野の多い人文学部が、その時まで持ちこたえられるか、流れに棹さすのではなく、流れの中で道を見いだすことを真剣に考える時期にきて

(人文学部教授)



(右は本文中で紹介されている、山口大学のシンボルマーク・ロゴタイプです。カラーで掲載できないのが残念です。)

鴻文会「賛助会員」の制度に 各位のご協力を

鴻文会活動は、最近ではご存じのように、実質、毎年度入学される新入生が入金される「終身会費」(一万円)、合計約一九〇万円をもとに行われております。それ以外の収入は一昨年まではほとんどございませんでした。

鴻文会は、この二三年の間、同窓会総会の開催、人文学部や日中学术交流奨励会への種々の支援、名簿管理、会報発行などの活動を行ってまいりました。

近年はこれに、山口大学後援財団への支援、ホームページの管理などが加わって、活動が多様化しております。しかし、それらの活動を支えていく資金は、昨今の厳しい経済事情もあって、決して安心できる状態ではありませんでした。

そのような中であって、お陰をもちまして、一昨年度に続き昨年度も卒業生会員の皆様から多額のご厚志をいただき、活動の資金とすることができました。ただ、昨年度は、諸般の事情から「会報」の発行・発送が三月にずれこんだ影響で、昨年度未まで日にちがあまり無く、大変にご迷惑をおかけいたしました。年度をまたいで、その後もお志をお寄せいただいておりますことに感謝申し上げます。次第です。特に本年度は、お陰で、一月一三日に開催されました、山口大学大学院東アジア研究科主催の国際シンポジウム、「東アジア伝統人形劇の継承と発展」にも後援者として協力することができました。これもひとえに皆様のお力添

えのためでございます。

活動を支えてくださった各位のお名前を左に記して、御礼に代えさせていただきます。

なお、本年度も、賛助会員について、引き続きお力添えをたまりませんようお願い申し上げます。加入者名「鴻文会」(郵便振替口座015000415902)と記した振替用紙を同封いたしております。それをお願いいたします。何卒、一口千円(なるべく二口以上)のご寄付を、よろしくお願いいたします。

平成一五年度賛助会員

(五十音順、敬称略)

東玉恵、伊豫英城、大下一彦、緒方正親、門井好恵、川邊貴弘、澤田サツエ、重田昌宏、鶴岡健一、中野隆司、中村あけみ、藤井日正、藤澤敏行、藤田美穂、本田隆三、宮内美貴子、宮藤隆夫、森重祐二、柳浦俊静、山縣乙水

鴻文会 会員名簿利用規則

- 一、会員名簿の更新(新規入会・異動に伴う)と保管は事務局で行う。
- 二、会員名簿は会員に限り開示することを原則とする。
- 三、会員名簿は、会員相互の親睦、会の発展を目的とした利用に限り使用することができる。営利を目的とした利用は禁止する。
- 四、会員名簿の開示は、直接に事務局で求めるか、郵便またはファックスで申し込み、事務局は、申し込み者が会員であることを確認して会員名簿を送付する。これにかかる経費は利用者が負担する。
- 五、会員名簿の開示申請者名簿(利用者名簿)を作成し事務局で保管する。

同窓会総会開催のお知らせ

平成一七年八月二〇日に、第七回となります。鴻文会総会が予定されており、場所は山口大学学生会館で、お昼過ぎより総会、講演会と続き、夕方から懇親会という日程となっております。

文学部人文学科、人文学部卒業生のみならず、研究室や同期のかたがたで互いに誘い合って多数ご参加ください。旧交を温める会にしたいと存じます。

平成15年度事業報告

1. 山口大学同窓会連合会(5月15日)
2. 山口大学日中学術交流奨励会理事会及び総会(7月2日)
3. 第30回役員会(7月26日)
4. 会報「鴻文」第23号発行(3月)
5. その他

平成15年度決算

収入総額 2,793,354 円 支出総額 2,363,487 円 残高(次年度繰越金) 429,867 円

<収入の部>

科 目	当初予算額	決 算 額	比較増減	摘 要
繰越金	370,762	370,762	0	
会費収入	2,000,000	2,220,000	220,000	10,000円×222人
名簿収入	0	2,000	2,000	
繰入金	0	70,540	70,540	賛助金(H.15年4月1日~H.16年3月31日)
雑収入	130,000	130,052	52	連合同窓会家賃130,000円、預金利子、その他
合 計	2,500,762	2,793,354	292,592	

<支出の部>

科 目	当初予算額	決 算 額	比較増減	摘 要
会議費	100,000	31,998	68,002	役員会、交通費、その他
印刷費	200,000	324,580	124,580	会報印刷5,200部、封筒印刷5,000枚
郵送料	430,000	504,005	74,005	会報郵送料、葉書購入、通信連絡費
事務所運営費	800,000	760,550	39,450	家賃390,000円、人件費340,550円 事務所経費30,000円(電話、町内会費)
ホームページ維持費	70,000	60,079	9,921	プロバイダー契約料、メールウィルスチェック料、謝礼ほか
事務費	20,000	17,955	2,045	消耗品、その他
寄付金	250,000	240,000	10,000	日中学術交流奨励会、財団運用資金への寄付
慶弔費	40,000	30,000	10,000	鳳陽会、霜仁会、常盤工業会総会への祝金
積立金	300,000	300,000	0	特別会計へ繰入
総会費	0	0	0	
予備費	290,762	94,320	196,442	パソコン購入、懇親会補助、その他
合 計	2,500,762	2,363,487	137,275	

<特別会計>

科 目	14年度財産	15年度財産	比較増減	摘 要
中期国債ファン代(H.10年~H.11年)	1,411,675	1,411,770	95	H.16年3月30日現在
定額預金(H.12年)	1,409,000	1,409,000	0	
定額預金(H.13年)	1,000,000	1,000,000	0	
定額預金(H.14年)	300,000	300,000	0	
定額預金(H.15年)	0	300,000	300,000	一般会計から繰入
定額預金(H.13年賛助金)	288,000	288,000	0	賛助金(H.13年4月1日~H.14年3月31日)
定額預金(H.14年賛助金)	383,000	383,000	0	賛助金(H.14年4月1日~H.15年3月31日)
合 計	4,791,675	5,091,770	300,095	

平成16年6月30日、監査の結果過誤なく的確に経理されていることを確認します。

監 事 藤 井 英 樹
北 川 健

平成16年度事業計画

1. 第31,32回役員会 (H.16年7月、H.17年2月末の予定)
2. 山口大学日中学術交流奨励会理事会及び総会 (7月14日)
3. 会報「鴻文」第24号発行 (2月の予定)
4. 山口大学同窓会連合会理事会 (8月9日)
5. その他 (鴻文会ホームページに会報「鴻文」バックナンバーを掲載することなど)

平成16年度予算

<収入の部>

科 目	16年度予算額	15年度予算額	比較増減	摘 要
繰越金	429,867	370,762	59,105	(15年度賛助金70,540円を含む)
会費収入	1,970,000	2,000,000	30,000	10,000円×197人(16年度入学者数)
繰入金	0	0	0	
雑収入	130,000	130,000	0	教育研究後援財団家賃
合 計	2,529,867	2,500,762	29,105	

<支出の部>

科 目	16年度予算額	15年度予算額	比較増減	摘 要
会議費	100,000	100,000	0	役員会、交通費、その他
印刷費	280,000	200,000	80,000	会報印刷(4,600部)、封筒印刷(5,000枚)
郵送費	510,000	430,000	80,000	葉書購入、会報郵送費、通信連絡費
事務所運営費	800,000	800,000	0	家賃、人件費、事務所経費(電話、水道、町内会費)
ホームページ維持費	70,000	70,000	0	プロバイダ契約料、メールウィルスチェック料、謝礼ほか
事務費	20,000	20,000	0	消耗品、その他
寄付金費	250,000	250,000	0	日中学術交流奨励金、教育研究後援財団
慶弔費	40,000	40,000	0	各同窓会への祝い金
積立金	300,000	300,000	0	
総会費	0	0	0	
予備費	159,867	290,762	130,895	
合 計	2,529,867	2,500,762	29,105	

<特別会計>

科 目	16年度財産	15年度財産	比較増減	摘 要
中期国債ファンド	1,411,770	1,411,770	0	
定額預金(H.12~H.15年)	3,009,000	3,009,000	0	
定額預金(H.13年)	288,000	288,000	0	賛助金(H.13年4月1日~H.14年3月31日)
定額預金(H.14年)	383,000	383,000	0	賛助金(H.14年4月1日~H.15年3月31日)
定額預金(H.16年)	300,000	0	300,000	一般会計から繰入れ
合 計	5,391,770	5,091,770	300,000	

投稿

台風と文化財

佐藤 力

今年、日本に上陸した台風は、観測史上最多の十個を記録し、全国各地に大きな被害をもたらしました。

広島県山間部では、多数の土砂災害のため道路が寸断されるなど、被害の生々しさは、記憶に新しいところです。

もちろん、山口県も例外ではありません。

八月三十日の十六号を皮切りに、九月七日の十八号、九月二十九日の二十一号と三つの大きな台風に襲われました。特に、十八号は観測史上二位となる風速五十・五メートルを記録し、山口市内に壊滅的な打撃を与えました。県のまとめによると、台風十八号の被害総額は、農林水産や土木などの合計で約百八十九億円、文化財の被害は六十四万所に及び、約一億九千万円にものぼりました。

さて、私は人文学科考古学研究室を卒業した後、山口市の文化財保護課に勤務しています。

この夏、緊急事態である台風の日には、市の職員として、市民の安全を守るための職場に詰めていました。幸い、この度の

台風では、私たちの職場から、直接、人的被害の現場にかけつけることはありませんでした。

しかし、風が止み次第、手分けして市内を巡回し文化財の被害状況を確認することになりました。

その結果、文化財自体や文化財の周囲、説明板や案内板等が傷んだ箇所が、三十四箇所確認されました。そして、特に大殿地区や白石地区など市内北部の被害が大きいことがわかりました。

ここからは、文化財の台風被害を、山口大学のある平川地区について見てみましょう。

「平川の大スギ」

山口大学吉田キャンパスの近くには国の天然記念物である「平川の大スギ」があります。昭和三年に指定された、周囲十メートル余り、高さ三十五メートルの巨樹です。古くから地元では霊木として祀られ大切にされてきました。

大スギのあるのは、山口大学南側にある山の中腹です。山村商店(通称、ぼっちゃんみせ)の横の道を山へ向かって奥へ奥へ進んでいくと「平川の大スギ」に行きあたりります。

歴史の古い山村商店は、ほとんどの卒業生が利用されたことがあるのではないのでしょうか。また、この店のすぐ近くに案内板があるため、学生時代に自転車で訪ねて行かれた方もいらっしゃるかと思えます。

さて、今回の台風では、林道周辺の木

が倒れ、大スギへの通交が妨げられました。しかし、幸い大スギ自体には、ほとんど被害がありませんでした。

ところで、今回無事だった大スギも過去の台風では大きな痛みを負ったことがあります。ここで少し詳しく見てみましょう。

平成十一年九月二十四日、台風十八号が山口に上陸しました。

この台風では、大スギの南側の枝がねじれ折れるなどの被害がありました。また、折れた枝が正常な枝に引っ掛かり、落下の危険がでてきました。折れた枝といっても、なにしろ元々が巨樹なのでその枝も大きく、簡単に手を出せる状況に

ありませんでした。また、折れ口も適切な処置を行わないと木全体に影響することが懸念されました。

そこで、文化庁への届出の後、早速、大スギの樹勢回復事業を実施することになりました。この事業では、樹木の専門家による樹勢回復委員会を開催し、どのような対策をとるか、様々な検討が進められました。

その結果、一、枯れ枝、台風被害枝を除去すること、二、切除した枝の切り口に腐朽防止措置をとること、三、枕木等で周囲を整備し、根を保護することなどが方針が決まりました。

実際の回復工事は、樹木医を擁した造園業者の手で進められました。工事中は



足場で覆われた平川の大スギ

しっかりとした足場が生まれ、安全を確保しながら、慎重に作業が進められました。

この工事の結果、余分な枝が取り払われることで周囲も明るくなり、枕木等で根元も保護され、根が踏みつけられることもなくなりました。光・水・養分が十分に行き渡るようになった大スギは、順調に樹勢を回復しました。今後も未永く平川地区を見守っていくことと思います。

「神郷大塚遺跡」

吉田キャンパス北側に広がる縄文時代から近世の複合遺跡です。今年の八月に市道拡幅に先立ち、平清水八幡宮の前の地点で約三百平米の発掘調査を実施しました。

さて、埋蔵文化財の場合は、その名の通り地下に埋蔵されているので、地上を吹く台風の影響はほとんど受けることがありません。

しかし、台風シーズンに発掘調査を実施していると、テントや仮設トイレが飛ぶことが、担当者の心配の種となります。テントがなくなるのも困るのですが、周囲の民家に飛び込んだり、道路を塞いだりするのが不安なのです。

台風で満タンの仮設トイレが倒れ、過ぎ去った後には中身が洗ったように綺麗になっていたという美しい話も聞いたことがあります

そのため、現地調査の間は、気象予報に注意しながら、杭やロープで固定する、土嚢を積むなどの台風対策をすることに



テントとトイレをロープで固定



雨で水没してプールようになった発掘調査区

なります。

幸いこれらの対策が功を奏し、今回は何事もなく無事に乗り切ることができました。

また、調査の方も整然とした古代の建物跡を検出するなど、平川地区の歴史を明らかにする上で貴重な成果を得ることができました。

さて、この度は台風に着目しましたが、文化財を脅かすのは、それだけではありません。日光・温度・湿度、動物・虫による被害など様々です。それから、自然だけではなく、盗難や落書き等の人害にもさらされています。

私たちは、文化財の所有者や地域の方々と連携しながら、こつとした脅威から、日々、文化財を守っています。

ところで、私は大学で学んだ考古学に関わっていきたくらいと思いい、文化財保護の職業を選択しました。特に、発掘調査を続けていきたいと思ったのです。そして、私の主な職務は、埋蔵文化財の保護となりました。

ところが、埋蔵文化財の保護と遺跡の調査とは、重なるところも多いのですが、実は大きな隔たりがあります。

埋蔵文化財、つまり、遺跡にとって、理想的な状態は何でしょう。それは、何も手が加わらず保存されることです。この保存されることを最良とする考えに基づくと、発掘調査自体も、遺跡にさわらない状態ということになります。ですが

ら、行政の実施する発掘調査は、開発のため掘削されるなど、保存することがかなわなくなった遺跡を、代わりに記録として保存するという、次善の措置です。

つまり、遺跡の調査は、埋蔵文化財の保護の全てではなく、手段の一つということなのです。

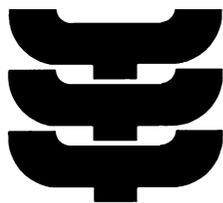
考古学を学んで文化財保護の職業に就くものは、発想の転換が必要になります。調査をしたいという燃える気持ちは抑えて、遺跡を守るといふ静かな気持ちに切り替えることが求められるのです。

埋蔵文化財に限らず、地域の歴史を伝えるもの、山口の本質を現わしているものは文化財です。

私は他県の出身ですが、山口大学を経て、山口市に住むようになり、もう十年を越えました。今では、新たな故郷として、親しみや誇りを抱いているところまでです。

そんな山口の文化財がいつまでも守られるよう、日々静かに邁進していきたいと思えます。

(人文第一三回卒・考古学)



文化財愛護シンボルマーク

文化財愛護運動を全国に推進するための旗印として、昭和41年5月に定められたものです。

山大周辺の台風被害

有本浩紀

二〇〇四年九月七日午前中から夕方にかけて、山口県地方を強襲した台風一八号は、山口大学にも大きな爪痕を残していた。キャンパス内のおちこちで、大枝が折れたり、根元から倒れたりした木々が見られた。大学施設も随分と被害を受けた。それでは、この台風を振り返ってみる。

この台風は、八月二八日九時にミクロナシア・マーシャル諸島付近で発生した。その後、太平洋を西西北西に進みながら発達を続け、九月五日一八時頃に沖縄本島北部を通過した。沖縄本島通過時には中心気圧九二五ヘクトパスカル、中心付近の最大風速四五メートル(秒速)と、勢力はピークに達している。その後、東シナ海を北上しながら、勢力を若干弱めたものの、七日九時半頃、長崎市付近に大型で強い勢力を保ったまま上陸した。さらに、長崎県から佐賀県、福岡県の北部を通過した後、一二時頃に北九州市付近から海上に抜け、山口県に最接近し、県西部の海上から日本海へと進んだ。八日には、北海道の西海上を北上し、一五時に宗谷海峡で温帯低気圧になった。

山口市では、一時二九分に最大瞬間風速五〇・五メートル(秒速)を記録し、これは観測史上二番目の記録となった。この風のため、二〇〇三年秋にオープン

して、完成後一年も経っていない山口情報芸術センターの屋根が吹き飛ばされ、優美な曲線を描いてウエーブした屋根が、雪崩を打ったようにセンター北側の芝生に崩れ落ちた姿は無残であった。

山口県全域の被害状況は約一月後の集計によると、人的被害(九月一五日時点)は死者四名、重傷九名、軽傷一六一名、住家被害(九月一六日時点)は、全壊三九棟(一六市町)半壊三一〇棟(二九市町)、一部損壊七、九六九棟(四四市町村)、床上浸水八一棟(八市町村)、床上浸水五六五棟(二七市町村)と、これだけ見てもその被害の大きさが分かる。

さらに、県全域で延べ六十三万八千戸余りが停電し、山口市内でも三、四日間の停電が続いた地区も珍しくはなかった。また、県内の公立の小学校三百三十六校、中学校百七十五校、高校・盲・ろう・養護学校八十一校の計五百九十二全校が休校した。

JRは山陽線や山口線、岩徳線など県内すべての区間で始発から運転を見合わせた。山陽新幹線も博多・新大阪間で運転を取りやめていたが、台風が通過した夕方から、一部区間で順次運転を再開した。水稲は強風でなぎ倒されたり冠水、秋芳町や豊田町のナシは六割が収穫済みであったが、残り四割の大半が強風で落果したという。阿東町ではリンゴが落ち「ほぼ全滅」の農園も出た。

大学周辺では、屋根瓦が吹き飛ばされた家々が目につき、修理の手が間に合わないよう、何日間も青色のビニールシートによる応急処置のままになっている

ところもあった。また、大学通りの多くの商店では、プラスチック製の電飾看板が粉々に砕け散っており、歩道に倒れた自販機とともに暴風の凄まじさを物語っていた。学生アパートでは、ペランダを囲っているプラスチック製の覆い板が粉砕されたところが目立った。また、ペランダに設置していた洗濯機が風で倒れて、窓ガラスを壊した例もあったようである。

この台風では、自然の脅威をまざまざと見せつけられた。台風通過が日中であったために、刻一刻と変わる周囲の状況をしつかりと見ることもあった。風がどんどん強まり、窓ガラスを打つ雨に加えて、強風で巻き上げられた砂や小石が混じって激しくガラスに衝突し、パチパチという硬い音を立てる様子。風圧で窓ガラスが内側にたわむ様子。何れもガラスが割れるのではないかとという恐怖感をもたらした。窓の外では、風で吹き飛ばされたプラスチック片や建築材と思われる発泡ウレタンなど、いろいろなものが舞いあがっていた。電線は、低く不気味な唸りをあげ、断線して垂れ下がっているところもあった。台風接近とともに停電となったが、台風通過が日中であったために、停電そのものにはそれほど恐怖感を感じることはなく、テレビ、ラジオなどで台風情報が得られないことに不便を感じる程度であった。しかし、もしも

台風通過が夜間であったならば、停電は大きな恐怖につながっていただろう。停電は、台風通過後の夜間に入っても続いていた。嵐のあとの静けさと停電の闇の中

で、日頃はあまり意識することのない自然の力と人間の無力さ、また人の作り出した力に思いを巡らせた。長い一日が終わったことを実感した。最後に台風の過ぎ去ったあとの大学キャンパスと周辺の写真を掲載する。

< 情報源 >

気象庁
(http://www.jma.go.jp/JMA_HP/jma/index.html)

中国新聞ネット版
(<http://www.chugoku-np.co.jp/News.index.html>)

国土交通省防災情報提供センター
(http://www.bosaijoho.go.jp/saigai.html#H16_08)

(人文第三回卒・博物文化論)



屋根が崩れ落ちた山口情報芸術センター

平成十六年度

山口大学人文学部生涯学習事業

私たち山口大学人文学部は、地域社会との交流を深め、幅広い年齢層の豊かな教養の保持と知的向上のために、十六年度、次のような事業を行ってまいりました。

(一) 第十七回公開講演

毎年一回、山口県下のひとつの地域において、本学部の二名の教官がひとつのメインテーマのもとに、三時間程度の講演会を行っています。今年度は、合併なつたばかりの周防大島町教育委員会のお世話になりました。

日時 平成十六年十一月六日(土) 午後十三時三十分より

会場 周防大島町文化センター

メインテーマ 心かよわずことば、日本語

講師・演題 添田建治郎教授 『かけがえのないことば、日本語』

磯部佳宏助教授 『変化する日本語 「誤用」と「ゆれ」』

*なお、来年度第十八回は、人文社会科学科の人間学講座の担当で開催の予定です。

(二) やまぐちサタデー・カレッジ(公開講座)

四年目を迎えました、大学キャンパス内における公開講座(土曜大学)は、今年度も昨年どおり、前期三コース、後期三コースの、合計六コースを開講し、それぞれ八回の講義を行いました。土曜日の午後、社会人、大学生、高校生が共に楽しく学んでおります。

会場 山口大学人文学部教室

前期(五)七月

日本文化コース 森野正弘講師、尾崎千佳講師 「古典文学への招待」

やまぐち学コース 中村友博教授 「山口県の遺跡」

外国語学習コース(英語) 島 越郎講師 「英文法入門」

後期(十)十二月

異文化交流コース 高木智見教授 「古代中国を読む 甲骨文・金文・

木簡・竹簡・伝来文献」

現代文化コース

脇條靖弘助教授 「哲学の思考実験」

外国語学習コース(韓国語)

和田 学講師 「韓国語の初歩の初歩」

*なお、来年度も左記、六コース開講の予定です。詳細は、三月頃、発行されます受講案内をご覧ください。(山口大学エクステンションセンター、電話083 933 5150)

(前期) 外国語学習コース(英語)(伊豆大和教授)、異文化交流コース(岡光一浩教授)、日本文化コース(磯部佳宏助教授)

(後期) 現代文化コース(藤永康政助教授)、やまぐち学コース(真木隆行講師)、外国語学習コース(中国語)(更科慎一講師)

(三) 出前講義

人文学部は、幅広い年齢層の知的探究心に応えて、必要なとき、いつでも学べる「場となることを目指して、本学部の教官が気軽に大学の外に出向いて講義する「出前講義」を行っています。今年度も、山口県下を初め、九州、広島における地方公共団体や高校等に出掛け多くの講義を行ってまいりました。

来年度も、今年度同様、地域社会の要望に応えてまいります。教官の講義できる領域などを掲載したパンフがありますので、「気軽に申し出下さい。(山口大学エクステンションセンター、電話083 933 5150)

(四) 周南サテライトカレッジ

周南市や県下の高等教育機関と連携して、徳山駅ビル市民交流センターで、今年度も月曜日に、本学部の教官による大学レベルの連続講義を行いました。(五)七月、八回 「ことばのなぞを解く」

太田聡助教授/下寄正利助教授/武本雅嗣助教授/

岩部浩三教授

*なお、来年度も開講を予定しております。周南市の発行する募集要項をご覧ください。

(五) 周南オープンカレッジ

周南市教育委員会(生涯学習センター)主催の生涯学習講座です。今年度も本学部の教官による講座を開講しました。

(七月、五回) 岡光一浩教授 「グリム童話の伝えるメッセージ」

*なお、来年度も開講を予定しております。周南市の発行する募集要項をご覧ください。

研究室紹介

社会情報論コース



民俗調査実習で長門市湯本温泉を訪ねる

博物文化論コースといっしょに社会情報論講座の一コースを構成している社会情報論コースは、人文学部が小講座制を採っていた頃の社会学講座と社会心理学講座がそのままの形で残り、旧社会人類学講座が新たに政治学系と民俗学系の学問領域に組み変わって現在に至っています。教員はそれぞれ二名×四で八名から成る、人文学部で最も大所帯のコースのひとつです。したがって、教員の研究内容も多岐にわたり、一言で説明するのはなかなか難しいのですが、このコースの最大公約数的な共通点と言え、おそら

く、個々の教員が、自らの所属する学会のデイシプリンや自分なりの視点・方法を用いて、現在もしくは現在に連なる近現代社会の具体的諸問題を扱っているというところではないかと思えます。

社会学の小谷(三浦)典子先生は、産業界における企業の社会貢献活動に視点を据えた研究をされており、この春、『企業の社会貢献とコミュニケーション』(ミネルヴァ書房)を出版されました。小谷先生と一緒に調査実習を担当されている横田尚俊先生は、災害をめぐる地域社会のあり様をテーマに、実際に被災地に赴いて調査をしたり、最近では市民活動についても研究しております。社会心理学の辻正二先生のご専門は老人差別(エイジズム)で、二〇〇〇年に『高齢者フレリングの社会』(恒星社厚生閣)を著わされています。同じく社会心理学で、もっぱら理論を中心に青年心理の研究をしておられる高橋征仁先生は、辻先生と共に山口大学時間学研究所でも活躍しています。以上の旧小講座社会学系分野をそのまま引き継がれた四人の先生方は、平成十四年に山口地域社会学会を立ち上げておられます。

大学改組に伴い、教養部から移籍された湯川洋司先生は山の民俗を中心とした研究がご専門で、ご著書のほか共編著に『暮らしの中の民俗学』(吉川弘文館、二〇〇三年)などがあります。また、今年、日本デザイン学会研究奨励賞を受賞された坪郷英彦先生は、特に人間とモノとのかわりを中心に、物質文化についての研究をしております。坪郷先生の研究

室を訪れると、日本各地だけでなく世界のさまざまな地域からやってきたユニークな『モノたち』が、研究室のあちこちに鎮座して訪問者を迎えてくれます。

新聞・雑誌等の評論やインタビュウなどでも活躍中の瀬藤厚先生は、日本の近現代史を踏まえた政治社会分析がご専門で、近年では『有事体制論』(インパクト出版会、二〇〇四年)など有事関連の書物を多数出版しております。山本真弓は、これまで南アジア、特にネパールなどヒマラヤ地域の政治について著わしてきましたが、ここ数年、他研究領域との交流が多く、この秋、編著『言語的近代を超えて』(明石書店)を上梓しました。

社会情報論コースは、一学年がおよそ三〇から三五名の学生たちで構成されて



瀬藤ゼミのメンバー



社会学調査実習で山口市榎野川漁協を訪問

おり、三年次進級のときに各指導教員の下に振り分けられるようになっていきます。このコースでは、教員免許、学芸員免許取得が可能なほか、日本社会学会等が中心になって資格認定を行なっている社会調査士の資格を取ることもできます。昨今の就職難のなか当コースの学生は比較的就職率がよく、在学中に企業のインターンシップを経験したり、ボランティアや調査実習を通じた社会経験がプラスになっているのではないかと考えられます。また、毎年大学院へ進学する学生も複数名あり、当コースの教員の多くが東アジア研究科の授業を担当していることもあって、今後の成果が期待されるところです。

(コース委員・山本真弓)

平成十五年
人文学部卒業生
大学院修了生進路状況

人文社会学科

製造業食料品
食品会社
印刷関連
宮崎日日新聞(株)雇用促進事業、谷口印刷、山口新聞社
再春館製菓所
情報通信業
再春館製菓所
PISHIデーボマックス
卸売・小売業
トマト・アンド・アソシエイツ、マツダアンフィニ山口、山口三菱自動車販売、ナフコ、(株)ロイヤル、三栄源エフ・エフ・アイ、(株)リライアブル、(株)やしま、(株)スクラム、(株)フジ
金融・保険業
福岡ひびき信用金庫、(株)アイフル
不動産業
穴吹住宅販売、(株)原弘産
医療・福祉
医療法人阿部クリニック、むくのき歯科
福岡鳥飼病院
学習支援
株大成社、LACグループ
複合サービス業
J A山口中央2名
サービス業
大島郡国民健康保険医療施設組合、ヒュ

ア、愛グループ、(株)ハーティウオンツ、NHK大分放送局、広島県国民健康保険団体連合会
公務員
国税専門官、陸上自衛隊、総務省、徳島大学、江津市役所、山口県(臨時)、鳥取県庁、山口県警察、萩市役所、山口県庁、山口県中央児童相談所(嘱託)、柳井市役所、徳地町役場、山陽町役場、宮崎市(嘱託)、唐津市役所(嘱託)、松山市役所
その他
O I S C A
進学
山口大学人文学部研究科6名、大阪府立大学人間文化科学研究科、京都大学大学院文学研究科、神奈川大学歴史資料学研究科

言語文化学科

建設業
積水ハウス、九州八重洲興業
製造業食料品
名古屋製酪
印刷関連
北海道新聞社
製造業
太平洋セメント、(株)スチール
情報通信業
平成電電、(株)山口情報処理サービスセンター
運輸業
四国旅客鉄道
卸売・小売業
トヨタ部品大阪共販、クオーク、(株)シン

ズ・カシヤアルダン、(株)フタバ図書、文栄堂、宮脇書店、西沢本店トウインクル金融・保険業
山口銀行、備北信用金庫、大和証券社
W W B エイジャパン
宿泊業
ラ・フランチエスカ、福岡シテイククラブ、A N A ホテル東京
医療・福祉
国立呉医療センター
学校教育
能美学園星琳高等学校、学校法人河原幼稚園、長崎県立高等学校(臨探)、萩光塩学院、福岡県立中間高等学校(臨探)
学習支援
明光VCOボレイション、NOVAグループ2名、ジオス子供英会話、(株)イーピーエム、ジャストミートコーボレイション

ン、マツオカコーボレイション、NOVA、大成社、KG情報、ELBEC教育図書センター、大栄教育システム
複合サービス業
山口周南農業協同組合、郵政公社2名
J A長門大津
サービス業
株近畿日本ツーリストクラブツーリズム、J T B、クリスタルスタッフ、ジーエ十々ツブ、山口県国民健康保険団体連合会
公務員
広島国税局、山口大学附属図書館(非常勤)、山口大学(非常勤)、豊後高田市役所、福岡県警、島根県警、山口市(臨時)、山口市役所(臨時)
進学
代々木アニメーション学院福岡校、山口大学人文学部研究科6名

入学年度別学生数

(平成16年11月1日現在)

学科・専攻	性別	16	15	14	13	12	11	10	9	計
		人文社会学科	男	41	41	36	40	8	5	
	女	63	60	66	59	3	0	0	0	251
	計	104	101	102	99	11	5	4	0	426
言語文化学科	男	16	20	20	22	2	3	4	0	87
	女	76	78	76	78	8	3	0	0	319
	計	92	98	96	100	10	6	4	0	406
合計	男	57	61	56	62	10	8	8	0	262
	女	139	138	142	137	11	3	0	0	570
	計	196	199	198	199	21	11	8	0	832
人文科学部	男	6	2	0						8
	女	4	3	0						7
	計	10	5	0						15
地域文化攻	男	1	3	0						4
	女	7	3	1						11
	計	8	6	1						15
言語文化攻	男	7	5	0						12
	女	11	6	1						18
	計	18	11	1						30

転居先不明者一覽表

同封の「異動通知カード」で
会報送付先をお知らせ下さい。

編
集
後
記

「鴻文」第二四号をお届けいたします。今年度から国立大学は法人化し、山口大学も「国立大学法人山口大学」が正式名称になりました。この大きな大学改革の中、我々も従来の「教官」という名称から、新たに「教育職員」が正式名称となりました。これから大いなる意識改革をおこなってゆくこととなります。

同窓生のみならずには、これからも山口大学と人文学部の発展のために一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。
(H・M)